


件名：選別農薬農法農作物の認証マーク及び愛称の決定

1 概要

当市では、「選別農薬農法」を全国に先駆けて推進していますが、認証マークと愛称を公募した結果、全国から認証マーク509点、愛称634点の応募がありました。公平かつ厳正な審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞2点を決定しました。

決定された認証マーク及び愛称は、認証農作物の包装袋や出荷箱、のぼり旗などに活用し、市内農作物のブランド化を進めます。

2 認証マークと愛称「しづせん」

	<p>【マークの趣旨・説明】 渋川から未来の子どもを育てる安全で美味しい野菜を届けたい！をテーマに、元気で可愛い育ち盛の子どもと野菜をミックスして認証マークにしました。</p>
	<p>【愛称の趣旨・説明】 「渋」川市が認証した、つまり厳「選」した農産物で、「選」別農薬農法で生産したという意味があります。 ひらがな四文字にすることで、覚えやすく親しみやすい愛称となりました。</p>

3 入賞者

(1) 認証マークの部門

賞	氏名	住所	副賞
最優秀賞	たかはし せりあ 高橋 汐里愛	東京都杉並区	賞金10万円、農作物セット
優秀賞	いぐち やすひさ 井口 やすひさ	群馬県高崎市	賞金2万円、農作物セット
〃	かりまた さやか 狩俣 さやか	沖縄県那覇市	同上

(2) 愛称の部門

賞	氏名	住所	副賞
最優秀賞	のじり まさひと 野尻 昌仁	滋賀県大津市	賞金3万円、農作物セット
優秀賞	おおた どうよう 太田 登洋	東京都多摩市	賞金1万円、農作物セット
〃	なつめ ゆか 夏目 由香	愛知県安城市	同上

参考 選別農薬農法について

ネオニコチノイド系や有機リン系など一部農薬を使用しない農法です。
 この農法で生産した農作物を市が認証し、認証マークを貼付して出荷販売できる渋川市の新たな農作物ブランドです。

- 対象品目 すべての農作物（加工品は除く）
- 認証要件 渋川市内で生産し、出荷販売すること
市が指定した農薬を使用せず生産すること

※ネオニコチノイド系農薬 ミツバチの大量死や消滅との関連が指摘されています。平成25年12月にEU(欧州連合)では、この農薬の一部を暫定的に使用禁止にする措置がとられました。

※有機リン系農薬 子供の発達障害が増加している原因物質の一つとして疑いがあります。

渋川市選別農薬農法の推進について

1 これまでの取り組み

時 期	内 容
平成24～25年度	農法実証のため、市内農地で実証試験 タマネギやニンジン等7品目において技術確立
平成26年2月	ガイドライン・防除指針の策定
平成26年5月	認証要綱・要領の制定
平成26年7月	認証制度推進委員会の設置、開催 認証制度の適正運営（外部委員による検討）
平成26年7月～8月	農家向け講習会の実施（のべ222名参加）
平成26年8月	新学校給食調理場に食材提供（タマネギ約270kgを納入）
平成26年9月	認証マーク及び愛称の決定 応募期間 平成26年7月15日～8月15日 応募者数 892件
平成26年9月末現在	秋冬野菜等の生産登録申請を受付中 登録状況 51登録、面積31ha 主な品目 ソバ、タネ、ホウレンソウ、ニンジン、ネギ など

2 これからの施策

当農法は、「環境に配慮した持続可能な農業の発展」「市内農作物の生産振興とブランド化」「農作物への消費者の信頼確保」「学校給食での地元食材利用」「食農教育や地産地消の推進」の5つの柱で推進します。

まずは、市内小中学校の学校給食として、市が認証した地元産農作物を提供します。

生産農家

- ①新たな生産農家の開拓、生産登録数の増加
- ②講習会の随時開催と個別対応
- ③現地指導や防除方法等の生産支援
- ④登録、認証表示（認証マークの貼付）
- ⑤認証マークを活用した直売所等における販売力の強化（チラシ、のぼり旗の設置）
- ⑥生産組織化の支援

消費者・飲食店等

- ①学校給食への食材提供の品目や数量、納入日数の拡大
- ②市内旅館、飲食店等での利用促進
- ③市広報、ホームページによる周知
- ④収穫体験、試食会の開催

生産・消費を広め

新たな渋川市ブランドの確立